

製品活用始まる

ロボットの中でも長らく待望されている製品のひとつがパワードスーツなどの装着型ロボットだ。医療機器としての承認を取得したサイバーダインをはじめ、介護や物流、製造現場でもさまざまな製品の投入・活用が始まっている。

装着型ロボットの課題は、人間がじかに装着するがゆえに求められる細やかな作り込みと現場の多様性にある。標準化・集約化が進んでいる産業用ロボットと異なり、装着型ロボットが求められる現場は、介護する相手や製造する対象によって

工程がそれぞれ異なるため、1人の労働者が多岐にわたり作業を担わなければならない現状がある。全ての現場をカバーできる汎用性製品はもちろんのこと、一つの現場を満足させる製品を実現



③

身体機能を拡張する装着型ロボット



産業革新機構ベンチャー！
グロース投資グループ
マネージングディレクター

大重 信二

日本生命、ポストコンサルティング、ドリームインキュベータを経て産業革新機構に入社。主としてロボット・宇宙などモノ作り分野を担当。

することさえ極めて難しい。円だったのに対し、装着型ロボットは大型補助金の追い風があつても27億円にとどまる。

課題に挑戦

それは市場規模が如実に物語っている。2016年度実績で産業用ロボットの市場が2200億

この課題に挑戦しているのが、産業革新機構（INCJ）の投資先の一つでもある、東京理科

大学発ベンチャー企業の「作開発を行っている。回えるほど改善が進んでいる。この初代『マッスルスー

新分野を応援

このように、インフィスは介護や工場労働者の声に十分に耳を傾けることで、ロボットメーカーとユーザー間の溝を埋める役目を担っている。INCJとしては注目を集

めづらしい「現場視点」、継続的に行う「介護支援力」を正當に評価するとともに、行政側でも利用者にとつて分かりやすい安全基準を策定するなど、産官学が連携して新しい産業分野の立ち上げを大いに応援すべきだと考えている。

現場視点の開発力を評価

ロボット

（隔週水曜日に掲載）